

MEIKAI-JOE プラス 2023

第11回講座

【授業研究講座】

「読むこと」「書くこと」の指導

—浦安市立見明川小学校

第5学年の授業実践—

愛知県立大学

池田 周

Enjoy Communication

バースデーカードをおくろう。



準備するもの

バースデーカード



Step 1

When

My birthday is May 5th.

Step 2

ペアでたずね合って、友達のほしいものをカードに書こう。

What do you want for your birthday?

I want a yellow T-shirt.

Step 3

友達と誕生日やほしいものについての話題でやり取りをしながら、バースデーカードをおくろう。

できたら に を入れよう。

1 あいさつをしよう。

Hi! Hi!

2 誕生日をたずねよう。

Step 1

《 構成 》

1. 学習指導案から
2. 指導のポイント 1~5
3. まとめ

Small Talk

What do you want for Christmas?



Sounds and Letters

小文字o~t ▶ p.89

o ~ t

小文字u~z ▶ p.89

u ~ z

使い終わった「バースデーカード」は p.34にはろう。

相手にものをわたすときには This is for you. Here you are.と言いましよう。

Tips

1 単元名 Unit 2 When is your birthday?

NEW HORIZON Elementary English Course 5 (東京書籍)

2 単元の目標

誕生日やほしいものについて、短い話を聞いておおよその内容を理解したり、友達と伝え合ったりすることができる。**アルファベットの小文字を書くことができる。**

3 児童の実態

Let's SingやLet's Chantでは楽しく元気に歌ったり、Let's Listenではたくさんメモを取ったり、前向きに学習に取り組む児童が多い。一方で、一対一のやり取りになると、外国語で伝えることの自信のなさから、なかなか言い出せない児童もいる。また、大文字と小文字を書くことにおいては、**大文字をなぞったり写したりすることはほとんどの児童ができるが、4線の正しい位置に書いたり、文字を聞きとって書いたりすることはまだ難しい児童もいる。**大文字と小文字の使い分けや、4線に正しく書くことなどにも、少しずつ取り組んでいるところである。

4 指導計画(全8時間)

- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 1・2校時 | 誕生日やほしいものについてのやり取りのおおよその内容を理解する。 |
| 3・4校時 | 誕生日やほしいものについてたずね合う。 |
| 5・6校時 (本時:5校時) | 「バースデーカード」を作って、誕生日やほしいものについてやり取りをする。 |
| 7・8校時 | 世界の1年について考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。 |

5 本時の展開 (5/8時間)

(1) ねらい

誕生日とほしいものについてたずね合い、
バースデーカードを作る。



(2) 手だて

- ・ 表現を十分に聞いたり話したりして慣れてから、書く活動を行う。
- ・ 活動の必然性をつながりを意識して展開する。
- ・ バースデーカードに名前を書くときには、頭文字は大文字で書くことや、語と語の間のスペースなど気を付けるポイントを伝えてから書かせる。
- ・ 「Animal jingle」を行うことで、音声と文字を関連付けることができるようにする。

Unit2 Class _____ Number _____ Name _____

① 次の文をなぞってみましょう。また、「My birthday is」の続きに自分の誕生日を書いてみよう。

When is your birthday? 月や日付は Picture Dictionary の 14 ページを見てください!

My birthday is _____

② 次の文をなぞってみましょう。また、「I want」の続きに、誕生日にほしいものを書いてみよう。

What do you want for your birthday?

I want _____ 日本語やイラストでもいいです。

(3) 展開

時	○学習内容	○指導・支援
10	<p>【Greeting】</p> <p>○ ALT、HRTとあいさつする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ How are you?・ How is the weather today?・ What day is it today?・ What's the date today?	<p>○ALTを中心に気分や天気などを確認する。</p> <p>○HRTは、答え方をサポートしたり、曜日や日付のつづりを確認したりする。</p>
	<p>【Let's Sing】</p> <p>① Happy birthday!を歌う。</p> <p>② Animal jingleを歌う。</p>	<p>○HRTとALTが楽しそうに歌うことで、明るく楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○教室を回りながら、発音が難しいところはどこか観察し、終わりに確認する。</p>
	<p>【Small Talk】</p> <p>○ ALTとHRTによる誕生日についてのやり取りを聞く。</p>	<p>○児童の興味を引くようなプレゼントにしたり、会話に児童を巻き込みながら進めたりする。</p>
	<p>【Let's Chant】</p> <p>① 「When is your birthday?」を歌う。</p> <p>② 「What do you want?」を歌う</p>	<p>○発音が難しそうなところがあれば、歌った後に確認する。</p> <p>○誕生日やほしいものをたずねたり答えたりする表現を確認し、提示する。</p>
	<p>【Today's Goal】</p> <p>誕生日とほしいものについてたずね合い、バースデーカードを作ろう。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">誕生日とほしいものについてたずね合い、バースデーカードを作ろう。</div>	<p>○バースデーカードに書く内容を確認することで、見通しを持つことができるようにする。</p> <p>○次時で、バースデーカードを交換することを伝える。</p>

時	○指導・支援	
30	<p>【Activity】</p> <p>○やり取りをしながら、カードを書く。</p> <p>① 自分の名前を書く。(1分)</p> <p>② 「Happy Birthday to you」の歌詞をカードに書く。 →となりの友達とつづりがあるか確認する。(1分)</p> <p>③ 誕生日をたずねて書く。(1分)</p> <p>④ ほしいものをたずねて書く。(2分)</p> <p>⑤ 描き終わったカードを提出する。</p>	<p>○自分の名前は「To」のところに書くことと、頭文字は大文字で書くことを確認し、正しく書くことができるようにする。</p> <p>○HRT、ALTは机間指導をしながら正しく書けているか確認する。</p> <p>○②～④の表現を何度も練習してからやり取りを行うこと。言葉をもってたずね合うことができるようにする。言うのが難しい児童には、Picture cardにある月や日付を指さしたり、ジェスチャーで発音してもよいと伝える。</p> <p>児童から、HRTかALTのところ、正しく書けているか確かめる。</p>
	<p>【Writing】</p> <p>① 誕生日やほしいものをたずねて書くカードを提出した児童からワークシートに取り組み。</p>	<p>○頭文字は大文字で書くことや、文の終わりにピリオドを書くこと、語と語の間にスペースを空けること、4線に正しく書くことを確かめる。</p>

このToの後には、何を書くのかな？

Happy Birthday to you ♪

カードを贈る人の名前を書いたから、今度は、このFromの後に、何を書くのかな？

「何がどうあれば」正しく書けているのかを、少しずつ、明確に示すと児童自身の目標意識につながる。

feedbackを行う。
を渡すことを伝える。



【指導のポイント】

1. “How do you spell Wednesday?” と尋ね、児童に綴りを言わせる場面
2. アクティビティの「やり取り」と相手の名前や誕生日などを「カードに書く」活動を交互に行っている場面
3. ワークシートの「自分の誕生日」を書く場面
4. 本時の「めあて」の提示のしかた
5. 児童から問いを引き出す工夫

【指導のポイント1】

“How do you spell Wednesday?” と尋ね、

児童に綴りを言わせる場面



「タブリュ」
「エ…、イー？」

活動におけるその時々、児童の頭の中を想像してみましょう。



指導者が期待しているのはどのような児童の姿でしょうか？

- ✓ Wednesday の綴りを見ながら文字の名称を言っている
- ✓ 覚えた綴りを思い出しながら言っている（全員覚えていますか？）
- ✓ これまで目にしてきた綴りやローマ字知識を基に想像しながら言っている

綴りを覚えて、それを思い出しながら言ったり書いたりすることは非常にハードルが高く、学習指導要領でも求められていない。

まずは「書かれた綴り」を見ながら言わせるところから。これまでの英語学習での慣れ親しみを期待するのなら、せめて「はじめの文字」を。

【指導のポイント 2】

アクティビティの「やり取り」と相手の名前や誕生日などを「カードに書く」活動を交互に行っている場面

【活動①】自分の名前を書く



名前をたずねて記入する



【活動③】誕生日を聞いて書く



児童がそれぞれの立場（聞き手、話し手）で「やり取り」と「カードにかかれたものを確認しながら協同的に学ぶことができている。その一方・・・

「やり取り」から得た情報を1つずつ記録させると、情報を忘れないように書き留めることだけに意識が向いてしまいがち。**あくまでも「やり取り」をしていることを大切に、書き留めたものを、相手に確認するため読み上げるステップを加えてもよい。**名前の綴りを読み上げるのはアルファベットの名称を言う練習、数字で書き留めた誕生日を伝えるのは、月の名前を言う練習にもなる。児童の実態に合わせて活動の流れを考える。

【指導のポイント 3】

ワークシートの「自分の誕生日」を書く場面



聞いて分かるようになって、自分でも言えるようになってから、書かせていますか。

ピクチャーディクショナリーがある場合は、「自分の誕生日」や「欲しいもの」をその中で指し示して、「書き写す」綴りが分かっている状態の方が取り組みやすい。

書き写し終わった後も、“I want a new soccer ball.” もしくは “I want [新しいサッカーボールのイラスト].” となっているものを見ながら、文の形できちんと言えることが大切。「言える表現を書き写して、それを見ながら再度言える」は、この段階で十分な音読の姿。

【指導のポイント 4 & 5】



本時の「めあて」の提示のしかた

《Today's Goal》

誕生日や欲しいものについて尋ね合って、バースデーカードを作しましょう

- ✓ 本時を通して「**何ができるようになるか**」について「CAN-DOリストの形での学習到達目標」の形で伝える ⇒ **これがふり返りにつながる**
- ✓ 児童の思考を促す「**目的・場面・状況等**」を設定する
⇒ 「何のために？」（友だちに贈るために）
- ✓ 指導者によるデモンストレーションは、「**めあて**」で目指す姿全体を見せるとよい ⇒ **主体的な学びへの取り組みを活性化**



児童から問いを引き出す工夫

指導者は児童に発問を投げかけるが、児童から自発的に問いを引き出すのはなかなか難しい。“Ask me.” や “Ask Elmi sensei.” という表現を効果的に用いることで、**問いを発することが習慣化されると期待できる。**



【まとめ】

高学年の2年間で、

「書くこと」の領域で育成を目指す資質・能力を
どのように育成していきますか？

(5) 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

この目標は、大文字及び小文字を正しく書き分けること、語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにすることを示している。

文字を書く指導に当たり、大文字、小文字を活字体で書かせる際には、「a, c, e」, 「f, l」, 「g, y」など文字の高さの違いを意識させたり、「p, q」, 「b, d」など紛らわしい形などを意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある。また、A a からアルファベット順に指導すべきものと考えのではなく、どの文字から書く指導をした方が児童にとって効果的であるかを考えることも大切である。例えば、A, H, I などの左右対称の文字、Cc, Jj, Kk などの大文字と小文字の形がほぼ同じ文字等、文字の形の特徴を捉えて指導するなど工夫することが大切である。

また、「語順を意識しながら」としたのは、“Sakura pushed Taku.”を、“Taku pushed Sakura.”と語の順序を替えれば、意味が大きく異なってしまいうように、英語では意味の伝達において語順が重要な役割を担っているからである。なお、児童に英語の文構造を理解させるために、語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うことも有効である。

(5) 書くこと

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

この目標は、英語で書かれた文、又はまとまりのある文章を参考にして、その中の一部の語、あるいは一文を自分が表現したい内容のものに置き換えて文や文章を書くことができるようにすることを示している。

例えば、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど自分に関する事柄について、英語で書かれた文、又はまとまりのある文章の一部を、例示された語句、あるいは文の中から選んだものに置き換えて、自分に関する文や文章を書く活動が考えられる。その際、例示された中に児童の表現したい語句、又は文がない場合は、指導者が個別に書きたい語句を英語で提示するなど、児童の積極的に書こうとする気持ちに柔軟に対応する必要がある。

文字の「読み方」(名称)の発音を聞いて、大文字・小文字それぞれの形を識別できる

「聞くこと」

外国語活動

厳密に言うと、学習指導要領では、文字を見て、その名称の発音ができるところまでは求めている。しかし指導実践において、文字の名称をの発音を行うことは自然な流れ。ただし評価規準の設定において配慮が必要

「書くこと」

大文字・小文字それぞれの形を見て、その名称を発音できる

大文字・小文字それぞれの形を4線上に正確に書くことができる

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、書き写すことができる

外国語

・この段階では、ある語の綴りを機械的に書き出させ、それが何を表わすかを考える活動に発展させることもできる

・「書き写す」活動において、写すものは何でもよいわけではなく、自分に関すること(気持ちなど)を表わすものとなるような対応が必要

「読むこと」

大文字・小文字それぞれの形を見て、その名称を発音できる

語句や表現が書かれたものを見て意味が分かるようになるために、文字の音に気付く

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれたものを見て意味が分かる

・学習指導要領には、語句や表現を発音する「手掛かりとなる」ように、「語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導する」(p. 78)と述べられている

・書かれたものを見て意味が分かるためには、その語句や表現を「発音できる」ことが前提

(2) 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

この目標は、活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、文字を見てその名称を発音できることを示している。英語の文字には、名称以外に、語の中で用いられる場合の文字が示す音がある。例えば、a や c という文字は、/ei/ や /si:/ という名称があると同時に、語の中では /æ/ (例: bag, apple) や /ei/ (例: station, brave), /s/ (例: circle, city) や /k/ (例: cap, music) という音をもっている。この目標における「読み方」とは、音ではなく、文字の名称の読み方を指していることに留意する必要がある。これは、中学年の外国語活動において、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかが分かるようにすることが目標とされていることを踏まえてのものである。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

この目標は、中学年の外国語活動の「聞くこと」、「話すこと」の学習活動を通して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにすることを示している。日常生活に関する身近で簡単な事柄について、掲示、パンフレットなどから自分が必要とする情報を得たり、絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりするなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることを示している。

アの項目で示したように、英語の文字には、名称と音がある。児童が語句や表現の意味が分かるようになるためには、当然のことながらその語句や表現を発音する必要があり、文字の音の読み方は、そのための手掛かりとなる。したがって、ここで示された目標に関して指導する際には、児童の学習の段階に応じて、語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導することとする。その際、中学校で発音と綴りとを関連付けて指導することに留意し、小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めることに留意する必要がある。

外国語活動

文字の「読み方」(名称)の発音を聞いて、大文字・小文字それぞれの形を識別できる

「聞くこと」

厳密に言うと、学習指導要領では、文字を見て、その名称の発音ができるところまでは求めている。しかし指導実践において、文字の名称をの発音を行うことは自然な流れ。ただし評価規準の設定において配慮が必要

「書くこと」
大文字・小文字それぞれの形を見て、その名称を発音できる

大文字・小文字それぞれの形を4線上に正確に書くことができる

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、書き写すことができる

・この段階では、ある語の綴りを機械的に書き出させ、それが何を表わすかを考える活動に発展させることもできる

・「書き写す」活動において、写すものは何でもよいわけではなく、自分に関すること(気持ちなど)を表わすものとなるような対応が必要

外国語

「読むこと」
大文字・小文字それぞれの形を見て、その名称を発音できる

語句や表現が書かれたものを見て意味が分かるようになるために、文字の音に気付く

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれたものを見て意味が分かる

・学習指導要領には、語句や表現を発音する「手掛かりとなる」ように、「語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導する」(p. 78)と述べられている

・書かれたものを見て意味が分かるためには、その語句や表現を「発音できる」ことが前提

どのように設定しますか？

使用教科書では
どのような指導計画となっていますか？



《第5学年「書くこと」の領域の学習到達目標》

《第6学年「書くこと」の領域の学習到達目標》

小学校「外国語」の「書くこと」の領域の指導で目指したいこと

名称を聞いたら、どの文字か分かる [大文字・小文字]

文字を見て、名称を言える [大文字・小文字]

文字の形を大きく宙に書ける(空書き) [大文字・小文字]

文字の形を大きく紙の上に鉛筆で書ける [大文字・小文字]

4線の上に文字を正確に書き写せる [大文字・小文字]

任意の文字を4線の上に正確に書ける [大文字・小文字]

語句や表現を書き写せる(文字の名称を頼りに)

語句や表現を書き写せる(文字の音を意識しながら)

小学校「外国語」の「読むこと」の領域の指導で目指したいこと

繰り返し目にしてきた文字のまとまり (sight word) だから、それ (その語) を見て発音できる

書き写したばかりの語句や表現だから読める (read aloud)

視覚情報が表す語を言えるから、綴りを見ながら読める (read aloud)

語の発音分かるから、文字が表わす音に気付いているから、(そしてローマ字綴りの知識もあるから、) 語の「はじめの音」を取り出して言える

読める (read aloud) 語句や表現だから、意味が分かる



小学校の外国語教育を通して、

「書くこと」など、それぞれの領域で育成を目指す資質・能力を
「CAN-DOリストの形での学習到達目標」として具体的に描き、
それを児童と共有しながら、
一つ一つ step by step で
「できることを増やしていく」指導に取り組むことを大切に

齋藤先生、

見明川小学校5年生の皆さん、

ありがとうございました!

